

令和6年度学校評価表

島根県立出雲高等学校

【学園の指標】
(1) 自主自立の精神に富み、気品高き自治の学園
(2) 誠実、勤勉にして、社会的秩序を重んずる学園
(3) 職員、師弟、校友相睦み合う、友愛協和の学園

(1)自主的な高校生活～自主自立～	①将来の目標を明確にし、その実現に向けて努力する。 ②出雲高校生としての誇りを持ち、品位ある言動を心がける。 ③心身の健康の保持・増進に努める。
(2)活力に満ちた高校生活～文武両道～	①日々の授業や探究学習に前傾姿勢で取り組むとともに、主体的・計画的な家庭学習を行う。 ②部活動・生徒会活動・学校行事等に主体的・協働的に参加し、健全な心身の成長を図る。 ③社会課題や科学技術に触れる機会を積極的に生かし、将来に向かって具体的な行動を起こす。
(3)心の触れ合う高校生活～友愛協和～	①気持ちの良い挨拶の交わし合いを心がけ、豊かな人間関係を築く。 ②友人や周囲の人を思いやる心を培うとともに、互いの存在を認め合う。 ③様々な機会をとらえ、教職員、地域や国内外の人々と触れ合い、成長の糧とする。

グラデュエーションポリシー

地域・社会のリーダーとして貢献できる人財 ～国創りを牽引するイノベーション人財～
○明確な目標を持ち、その実現に向けて努力する人
○常に探究心を持ち続け、視野の拡大と変革を志す人
○多様性を受容し、協働して新たな価値を創造できる人

評価の指標（肯定的評価値の割合） A: 80%以上（満足できる） B: 60～79%（もう少し） C: 50～59%（改善が望ましい） D: 49%以下（改善が必要）																	
ミッション	領域	目標 （評価項目）	目標達成のための施策	主たる 担当分掌	評価 指標	自己評価										学校関係者評価	
						目標値 [a] %	評価値 [b] %	達成指数 [b/a]	平均評点 [総和/4]	評価	取組状況と課題	改善策□	総合 評価	コメント			
一隅を照らす 国の宝を育成する	環境整備	○学びやすい環境の構築 ○働きやすい環境の構築	(1)教育目標及び重点目標の達成に向けた教育活動が行われている。	管理職		80	95	119%	3.3	A	概ね高い評価を得た。'出雲学校に入って良かった'という質問についても生徒・保護者とも高い評価となった。諸行事や教育活動についてその意義と必要性の観点から見直し、次年度に向けてスリム化を図った。	スクールミッション等で期待される役割、グランドデザインで目指す方向性をもとに、これからの時代に求められる力などにも柔軟に対応できるよう、教育活動の一層の精選・充実を図っていく。	A	・1年生の生徒アンケートで、学習に関する質問項目について評価が低いことが気になる。高校に慣れていないとはいえ、アンケート実施は12月である。入学してくる生徒の質が変わっているのではないかと。私たちも現状に合わせてブラッシュアップし、生徒のケアをしていくことが必要である。			
			(2)PTA活動やPTAの広報等を通して保護者との連携を図る。	総務		80	90	113%	3.5	A	現在、評議員の定数と三委員会の委員数を実態に合ったものに縮小する方向で、検討を進めている。2月の評議員会で決定する予定である。	PTA役員と連絡を密にして進めていきたい。	A				
			(3)様々な奨学金制度を紹介し、生徒・保護者にその活用を助める。	図書文化 情報		80	98	123%	3.6	A	担当者の努力で、ここまで滞りなく奨学金の紹介と申込者の処理ができています。事務処理量が多く、担当者の負担が大きいことが課題である。	受給者の在学状況報告など、客観的に見て学校を通す必要がないものが多い。少なくとも県内レベルのものは受給者と直接やり取りしてもらよう、要請する方法がないだろうか。	A				
			(4)ホームページにより保護者・地域への広報活動を行う。			80	90	113%	3.3	A	ホームページの更新については各部任せである。スムーズにアップできるよう検討していたが途中になっている。	HP掲載のための手続きについて検討していく。奨学金の情報等、大切なお知らせについては「さくら連絡網」などにも載せてもらい、情報提供を行う。	A				
			(5)生徒の健全な教養を育成するために適切な資料を整え、利用しやすい図書館運営を行う。			80	100	125%	3.6	A	新たな企画を立てて、図書委員会の活動を活発にできた。	次年度以降も新企画を立て、図書館を訪れる人を増やしていきたい。	A				
			(6)学習活動に即応できるICT機器利用の環境を整える。	保健		80	100	125%	3.5	A	情報発信や機器の貸し出しなど、システムを活用する環境の整備に努めている。	使用者の要望を聴き、継続して環境整備に努めていく。	A				
			(7)清潔で整った校内美化を保つよう、積極的に清掃活動を行う。			80	90	113%	3.2	A	清掃活動については、美化委員会による清掃点検や、トイレ掃除マニュアルやチェックリストの作成などに取り組んだ結果、概ね高い評価を得ている。主体的に掃除に取り組む生徒を育てていくことが課題である。	清掃用具の整備などを通して、効率よく掃除ができる環境を整えていきたい。また、教職員も一緒に掃除に取り組む、清掃活動への姿勢を指導していきたい。	A				
			(8)費用対効果を考えた効率的な予算執行を行う。	事務		80	93	116%	3.4	A	昨年度から予算充足率が追いつかない状況であるが、各分掌・教科との連携を図り、より高い効果が得られるよう効果的な予算執行に努めた。	費用対効果や優先順位に留意し、安全な教育環境の整備に特に配慮するなど、限られた予算の有効な執行に引き続き努めていく。	A				
	人権尊重の精神の育成	○自他を尊重する精神の育成 ○豊かな人間性の育成	(9)生徒が主体的に取り組めるような生徒会運営を行う。	生徒	生徒・保護者アンケートの結果を参考にした	80	100	125%	3.7	A	課題はあったもののキャンプファイヤーの実施など新たな取り組みもすることができた。外部からの参加者や不審者に対する対応に課題が残った。	外部からの参加者をどこまで認めるのかを具体的に、不審者に対する対応としたい。	A	・ICT活用について、生徒アンケートの項目がない。環境は充実しているが、活用はそこまでではない、と生徒はとらえているのではないかと。			
			(10)人権教育に係るホームルーム活動や講演会等の学習とおして、人権感覚を育成し、自他の人権を尊重しあう意識の醸成を図る。	生徒		80	98	123%	3.6	A	担任・副担任の協力のもと人権学習はスムーズに実施された。	生徒の課題や背景を理解し、情報共有していくことを大切に、人権教育を深化させたい。	A				
			(11)いじめに関するアンケートを活用し、いじめを許さない意識を育てる。	80		98.0	123%	3.6	A	7件のいじめ認知を行った。「いじめ」について回答した生徒には、適切に対処できた。	年間3回のいじめアンケートを行い、小さな部分から発見できるようにしたい。	A					
			(12)服装検査や街頭指導、集会指導等のあらゆる機会をとらえて、基本的生活習慣の確立にむけた指導を行う。	80		85	106%	3.1	A	携帯電話の不正使用報告が、もっと潜在的にあると思うが、11件あった。遅刻は特定の生徒が繰り返している状況であった。	適宜、携帯電話の不正使用について訴えかけていく。また生徒会と協力して、遅刻防止に関する取り組みを検討したい。	A					
		○規範意識の定着 ○基本的生活習慣の確立	(13)部顧問会や大会・遠征等の支援を行い部活動の活性化を図るとともに、規律ある活動に向けた指導を徹底する。	生徒		80	93	116%	3.3	A	活動中は巡回してもらうようにお願いした。突発的な事故への対応はスムーズであった。	管理責任は教員にあるので、部活動中の巡回は継続して行う。	A		・生徒・保護者アンケートで、出雲高校に入学してよかった・入学させてよかった、が90%台であり、高校に対して前向きであることがわかる。生徒・保護者・教職員の評価が一致している。 ・図書館の環境が充実している。生徒もよく利用している。		
			(14)街頭指導や自転車点検等の施策を行うことで、生徒の交通安全指導を徹底する。	80		98	123%	3.5	A	※ただし(17)(20)は生徒による肯定的評価の割合 交通事故が9件起きた。事故が起こった時のマニュアルを配布し啓発を図った。	学校周辺での送迎が年間を通じて問題であった。出雲科学館、ねむの木保育園、セブンイレブン周辺などでの送迎について、適宜メールなどで啓発していく。	A					
			(15)各教科と連携して指導方法の研究を行い、教員の指導力向上と教科指導の充実を図る。	教務		80	85	106%	3.3	A	評価に関する教務規程・内規の一部を改訂するにあたり、評価や定期試験のあり方を各教科会、教科主任会でたくさん議論する機会を持つことができ、昨年より10ポイント高い評価を得た。	次年度も、教科主任会を中心に、授業のSS化を進める方策や、定期試験やシラバスについての検討を行い、授業力向上の機運を高めていきたい。	A				
			(16)GRITizmノートや休日の自習開放を活用し、自ら学びに向かう意識を高める。	キャリア教育 学年部		80	89	111%	3.2	A	自習開放は、ここまで予定した回はすべて実施。効果について教員からは肯定的回答89%。日曜日に実施したこともあり、効果は認めつつも休日勤務という課題は残る。1・2年生からの評価は前年よりも下がった。	日曜日の実施はやめる。会場を各HR教室ではなく1号館の特別教室にまとめ、監督者数を減らす。年度当初に監督希望を募ってから、空いたところを割り振ることで少しでも負担感の軽減を図る。	A				
	(17)3年生の土曜補講・放課後補講を適切に実施し、生徒個々の進路志望の達成に向けた学力向上に役立てる。	80	85		106%	3.3	A	土曜補講は破綻。ただ、前々から無理を通してきたのが、いよいよ破綻したというだけ。放課後補講もクラス単位で全員受講という形態よりも、2学期補講のように希望制にしたほうがより効果が高まると思われる。	R7は土曜補講廃止、1学期の放課後補講も完全希望制へと変更する。主体的に生徒が参加することで効果を高めたい。1学期放課後補講→サマースクール→2学期放課後補講という大きな流れの中で学力の向上を図る。	A							
	(18)大学入学共通テストや各大学の個別試験に関わる情報を研究・整理し、教職員・生徒・保護者に発信する。	80	95		119%	3.4	A	今年度から全体教職員研修をベネッセによる講話(全国概況、志望動向)に替えた。進路検討会とセットで行っているため時間が30分程度と短い。コンパスなどツールの説明時間が多かった感もある。	コンパスなどのツールは有効に活用していくことが必須なのでその説明はあったほうがいいが、全体研修会ではなく別設定で希望者対象で行うほうが妥当。全体研修会は進路指導研究の時間としたい。	A							
	(19)3年間を見通した進路指導計画のもと、適切な情報提供により、生徒・保護者の進路意識の高揚を図る。	キャリア適形成に必要能力の向上	80		98	123%	3.6	A	PTA土曜講座は、今年度からオンデマンド配信にしたことで、教員全体としての負担を大幅に軽減できた。キャリア教育部が関わる学年集会は例年並みの実施回数。もっと学年部と連携を強化することも検討。	次年度もオンデマンド配信の形で実施するのであれば、今年度のように対象学年を指定してまとめて大量の動画を配信するのではなく、全学年対象にして少しずつ配信していく形が有効ではないか。	A						
	(20)進路希望調査・プロフェッショナルセミナー、久徴セレンディビティなどを行い、キャリア教育に対する意識の高揚に努める。		80	83	104%	3.3	A	久徴セレンディビティや大学学部説明会は例年通りの回数を実施。セレンディビティは特に参加人数が少なくもったいないと感じる。	周知し参加を促すことと併せて、実施形態も今のように放課後希望者対象というだけでなく、パワーアップセミナーやプロフェッショナルセミナーに組み入れるなど変えていくことも検討。	A							
	(21)個別添削、小論文指導や面接指導を組織的に行い、進路実現を支援する。		80	90	113%	3.4	A	小論文・面接指導の効果的な組織化について、90%の肯定的評価を得ているが、教員の負担は大きかった。それはすなわち生徒への関わり、指導の希薄化につながりかねないので由々しき状況。	3年生の1学期から指導担当者を割り振り、余裕のある日程で小論文・面接指導を展開する。2年生のうちに志望理由書を書かせるなど、全体の動きを早めていくことを検討。	A							
	(22)各種研修や課題研究などを通して、SSH事業と科学系人材・グローバル人材育成のための取り組みの充実を図る。		80	95	119%	3.5	A	・取組状況：取組の質は担保しながら業務の精選に努めた。 ・課題：理数系の取組に偏りすぎないようにしつつも理数系人材の育成を図る取組を充実させるための工夫が必要である。	普通科理系の生徒や希望する生徒にむけての理数系の関心を高めたり、人材育成につながるような取組の実施を検討する。	A							
	安全対応能力の向上	○危機管理体制の確立 ○危機回避・対応能力の向上	(23)危機管理マニュアルにより災害・事故発生時に迅速かつ適切に対応できる体制を整える。	管理職	80	98	123%	3.4	A	豪雨等による臨時休業や感染症等による学級閉鎖については一定の基準をもとに判断し、「さくらメール」等を活用して適切に周知できた。いじめや不登校等への対応については、各分掌や学年会と連携して早期発見・対応に努めた。	様々な場面を想定し、迅速かつ適切に対応できるよう、今後とも校内の担当分掌や外部機関との連携に努める。	A	・自転車による交通事故が9件発生したことが気になる。学校周辺で保護者の車から乗降している姿を見る機会が多い。登下校中の安全に気を付けて欲しい。 ・「土砂災害特別警戒区域」の件はなんとか解決できないかと。 ・久徴セレンディビティの参加生徒が少なくもったいない。今年度も良い話をしていただいた。生徒の参加が増える工夫をお願いしたい。				
			(24)学校防災計画を作成し、計画的避難訓練を実施することで生徒・教職員への周知徹底を図る。	総務	80	95	119%	3.4	A	避難訓練、防災HR共に適切に開催できた。訓練後、西側階段に避難者が密集して危険だという懸念が複数の方から寄せられた。	本校の東側に「土砂災害特別警戒区域」に指定されているため、東側は避難経路として使用できない。避難経路が制限される現状も問題であるし、そもそも、学校のすぐそばにそのような区域が存在する状態が長年放置されていること自体が大問題である。県などに改善工事の実施を要望できないものだろうか。	A					